

輝け、女性研究者！根を張れ、花咲け、実を結べ@北大

(実施期間：平成 21～25 年度)

実施機関：北海道大学（代表者：佐伯 浩）

プロジェクトの概要

- (1) 新規養成女性研究者（女性教員）の採用計画（F3 プロジェクト）
 - ・理・工・農系で、応募者を女性に限定した人事案件を募集し、毎年 5 名（配分目安：理 3、工 1、農 1）、5 年間で計 25 名の女性教員を採用。
 - ・新規採用女性教員（Fresh Female Faculty; F3）に係る人件費の採用部局負担を 3 年間ゼロ、続く 5 年間は 1/2 に軽減して採用促進。
 - ・助教採用の場合、養成強化期間 3 年を通常任期 5 年に加え、最短でも 8 年の安定した雇用・研究環境を保障、任期更新と出産等による延長を加えた最長任期 15 年。
- (2) 女性研究者（女性教員）養成のための主な取組内容
 - ・研究費支給（1 年目：150 万円、2～3 年目：各 100 万円）、複数メンター配置
 - ・FD 教育・リーダーシップ教育（本学各種人材育成プログラム＋海外育成プログラム）
 - ・出産・育児等期間への研究支援員配置
- (3) 期待される効果
 - ・理・工・農を中心に理系女性教員数の増加、女性教員採用比率の向上
 - ・「数」の効果で採用部局及び全学的な意識改革の促進・ロールモデルの増加により女性研究者の加速的増加及び活躍促進へと向かう正のスパイラルの開始

(1) 評価結果

総合評価	進捗状況	女性研究者支援システム改革状況	取組の内容	実施体制	今後の進め方
A	a	s	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

本プロジェクトの「F3 プロジェクト」と自主財源によるポジティブアクションにより女性限定の国際公募を実施し、女性研究者の採用・育成を効率的に進めていることは評価できる。機関が掲げる「Triple Twenties 計画」（2020 年までに全研究者における女性比率を 20%にする。）を踏まえ、本プロジェクトにおける女性教員採用を全学体制で推進し、目標を達成している。

- ・**進捗状況**：理工農系分野の女性教員の採用数・比率、機関全体の女性教員比率等、目標をほぼ達成していることは評価できる。
- ・**女性研究者支援システム改革状況**：本補助金及び自主財源（全学戦略人件費）を用いて女性研究者の採用における部局の人件費負担を軽減するシステムを構築し、女性教員の採用を促進していることは高く評価できる。また、様々な年齢、研究分野、職階の教員より成るメンター集団を組織し、特色のあるメンタリングシステムを確立していることも評価できる。

- **取組の内容**：女性研究者の育成に重点を置き、助教の採用を進めていることは評価できる。今後、女性の上位職階での採用及び登用を促進させることを期待する。
- **実施体制**：総長主導の下、機関の掲げる「Triple Twenties 計画」にのっとり、全学体制でプロジェクトの進捗が加速されていることは評価できる。
- **今後の進め方**：自主財源で実施している全部局・全分野を対象とした女性教員のポジティブアクションによる採用は、2020年度まで継続される予定であり評価できる。今後、本事業の対象であった女性教員比率が特に低い理工農学系分野の女性教員の採用及び上位職階への登用を加速させることを期待する。